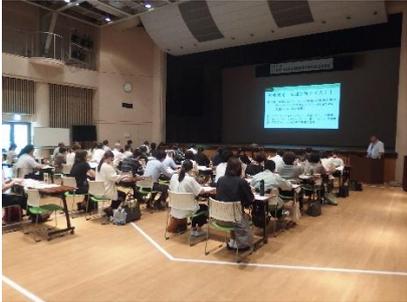


令和7年度

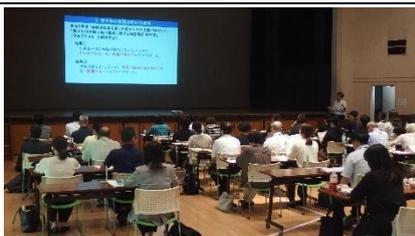
事業名 社会教育・生涯学習関係職員等研修会【基礎講座】	
期 日 令和7年6月17日(火)	
参加者 54名	
趣 旨 社会教育・生涯学習関係職員の新任者及び学び直しを希望する者が、生涯学習・社会教育に関する基礎的知識の習得を図り、これからの生涯学習振興・社会教育行政関係職員に求められる役割と多様な主体と連携・協働しながら、業務を推進していく方法や視点を学ぶ。	
活動の様子	
【説明】「社会教育・生涯学習の現状と本研修の趣旨」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 高木 昇太	
	<p>まず、社会教育と生涯学習とは何なのか、教育基本法や社会教育法などの定義から説明しました。</p> <p>次に、現代社会の状況を確認した上で、第4期教育振興基本計画から国の教育の方向性や日本社会に根差したウェルビーイングについて説明しました。</p> <p>また、社会教育・生涯学習関係職員に求められている役割について、中央教育審議会答申などから説明しました。</p> <p>最後に、本研修の趣旨について「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の観点から説明しました。</p> <p>「社会教育・生涯学習の現状を知ることができた。」「基本的なことが学べた。」「今後の方向性が分かった。」という参加者の感想が見られました。</p>
【研修1】ミニ講話「社会教育・生涯学習の基礎知識」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 「公民館の基礎知識」 柴尾 裕夢 「社会教育委員の基礎知識」 杉 由大 「家庭教育支援の基礎知識」 城井 希人 「地域と学校の連携・協働の基礎知識」 高木 昇太	
	<p>「公民館」「社会教育委員」「家庭教育支援」「地域と学校の連携・協働」について、現状と課題、そして今後求められていることや方向性について、各担当者がミニ講話を行いました。参加者からは「基礎を学ぶことで気づけたことがたくさんあった。」「各事業との関わり合いや事業の進め方等、イメージができた。」「生涯学習課職員として求められる役割をしっかりと理解できた。」など、社会教育・生涯学習の各分野への理解が深まり、今後の業務への見通しをもつことができたという感想が多く寄せられました。</p>

## 【研修2】講話・演習「やってみよう！研修で活用できるレクリエーション」

社会教育総合センター体験活動推進班

班長 村本 篤史

社会教育主事 植田 泰司



まず、「青少年の体験活動の基礎知識」と題して講話を行いました。青少年の体験活動の内容や現状、そして体験活動の好影響や今後の方向性について説明しました。

次に、研修などで活用できるアイスブレイクの演習を行いました。一人でできるものから二人、四人と人数を増やして様々なアイスブレイクを経験しながら学んでいただきました。レクリエーションを行う際の声掛けなどのポイントについても解説をしました。参加者の皆様は意欲的に参加され、あっという間に打ち解け、会場全体が非常に活発な雰囲気になりました。「知らない者同士が集まっての研修はどうしても緊張するが、アイスブレイクを行うことであっという間にリラックスし、打ち解けられ、その効果に驚いた。」「レクリエーションをすることで、グループ活動の活発度が大きく変わることを体感できた。」「どういう展開になるのか、何を考えさせるのかを十分に想定して臨むからこそ、より意味のある時間にできる。」などレクリエーションの効果に関する感想が多く寄せられました。

## 【研修3】演習「社教トーク！～聞いて話してつながろう～」

社会教育総合センター調査・研修班

社会教育主事

高木 昇太



参加者同士が意見交換し、顔の見える関係をつくることと、これからの事業推進に関して、新たなアイデアや気づきを得ることを目的として、「ワールド・カフェ」による対話を行いました。レクリエーションによって参加者同士がすでに打ち解けていたこともあり、大変活発な意見交換が行われました。「今後について考えるきっかけや足がかりがつかめる意見が多く、自分の仕事内容がより明確になった。」や、「課題解決に向けてのアイデアをたくさん知ることができたので、それを生かせるよう行動していきたい。」「つながりをつくることはとても大切だと思った。」などの感想が多くありました。

### 参加者の声

- ・ 基本的なことから様々な方々との対話まで、とても学びがあった。
- ・ レクリエーションや対話によって皆さんと笑顔で話すことができた。
- ・ 人間関係の構築が大切だと思った。
- ・ 自分の日ごろの学びを深めることもでき、刺激になった。